

## 展開

同和教育上の配慮

具体目標	時間	学習活動	教師の支援
1 本時の学習問題を把握し、問題意識を持つことができる。	10	1 資料『武士に抵抗した清蔵』を読み、「清蔵やその仲間」としての言い分や「村の役人達（農民）」としての言い分を考え、作業用紙に記入する。	資料『武士に抵抗した清蔵』は事前に配布し、その場の光景を十分にイメージさせて本時に臨ませるようにする。  「清蔵やその仲間（さらに低い身分とされた人々）」、「村の役人達（農民）」という、相対する二つの立場の人々の心情について深く考えられるように助言する。
2 話し合いを通して、それぞれの人々の立場になって、その時の心情を考えることができる。	10	2 これをもとにして、グループ内で話し合い、結論（判決）を出す。  ・「清蔵やその仲間（さらに低い身分とされた人々）」 ・「村の役人達（農民）」 ・「町奉行所の役人達（裁判官ではあるが、武士）」の三つの立場の役割分かれ、話し合いをする。	三つの役割については、無作為に決める。  自分がその立場になりきって、心情を考えながら、話し合いを進めていくように助言する。  町奉行所の役人達は、司会や記録を担当し、最終的に協議して判決を下すことを知らせる。
3 他のグループの発表を聞き、自分が裁判官だったらどうするか考えることができる。	15	3 各グループの発表を聞き、自分が裁判官として、どのような判決を下せるか考え、話し合う。	発表の中で、重要なポイントとなる意見を十分に押さえ、一人一人が判決を考える上でのヒントにさせたい。  裁判官は、武士の立場ではあるが、清蔵達の心情や世の中の動きなどを十分考慮した上で、判決を考えるように助言する。  話し合いをして、判決が変わってもいいことを知らせる。
4 話し合いを通して、「さらに低い身分とされた人々」の今後を想像することができる。	10	4 判決後の「清蔵やその仲間（さらに低い身分とされた人々）」の行動を予想する。	自分が出した判決の後の「清蔵やその仲間（さらに低い身分とされた人々）」の行動を予想されることにより、差別に立ち向かおうとする意志の強さを感じさせたい。